

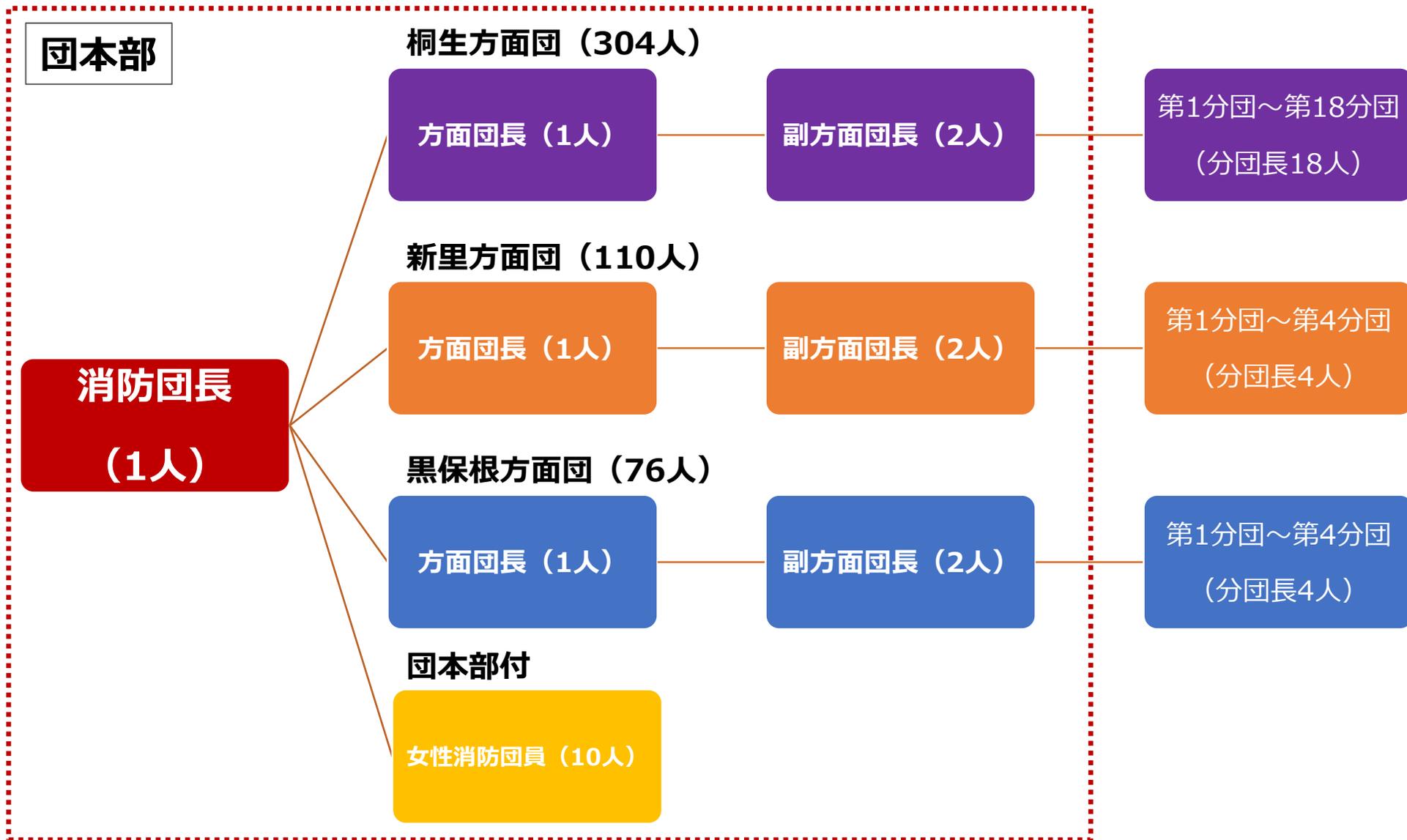
桐生市消防団について



桐生市消防団

桐生市消防団組織の概要

桐生市消防団：510人（令和4年4月1日時点）

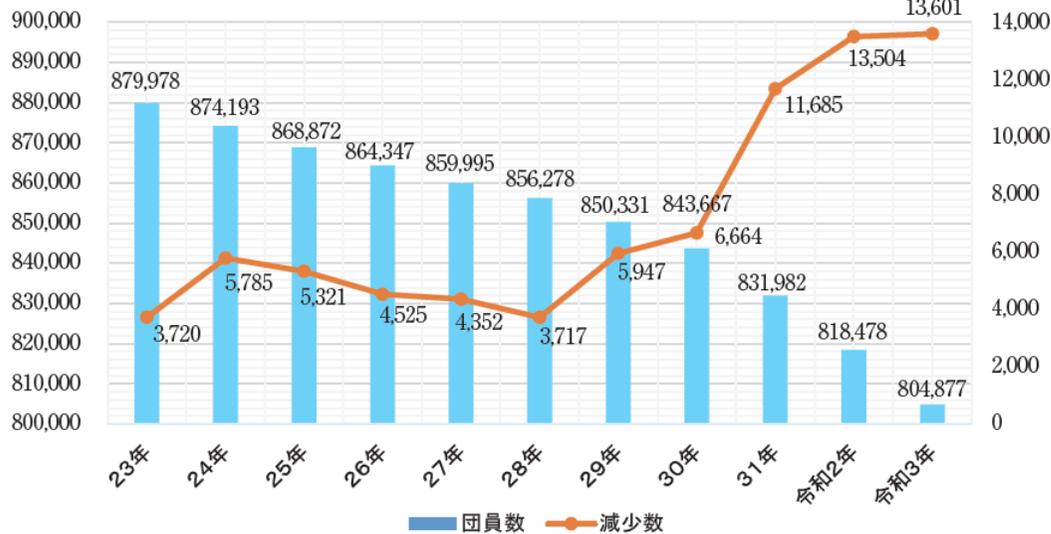


消防団が抱える課題

全国的に消防団員数が減少する中、本市においても減少傾向であり、「桐生市消防団条例」で定められている定数の598人を下回っている。

■ 全国の状況

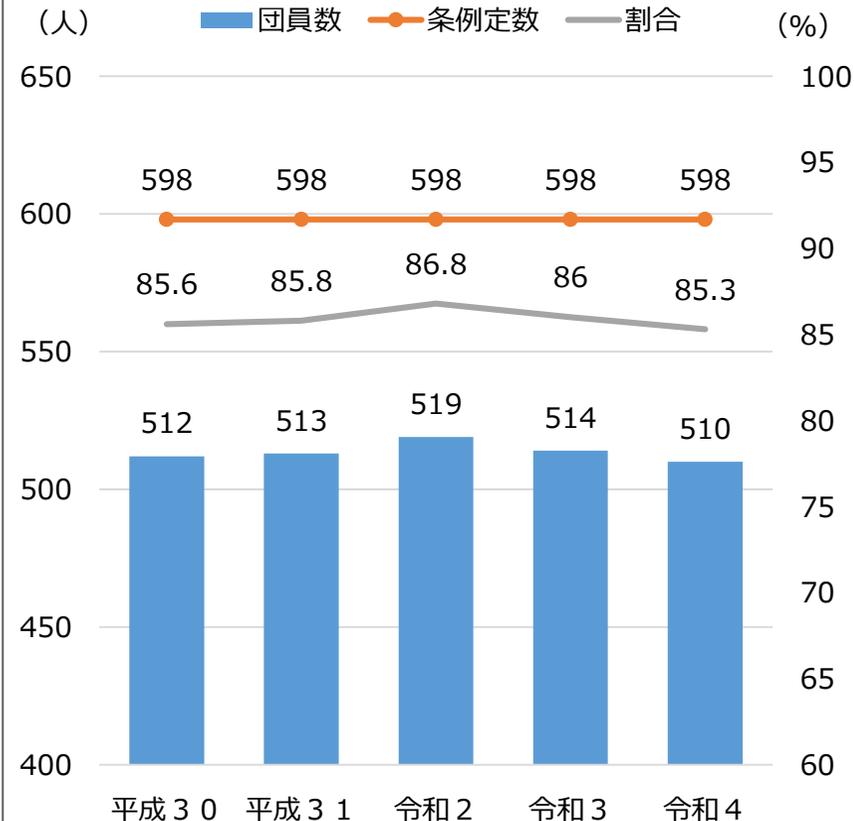
図1 消防団員数及び対前年減少人数の推移



注) 「消防白書」により作成

出典：公益財団法人 日本消防協会「地域防災力の充実強化と消防団 2021」

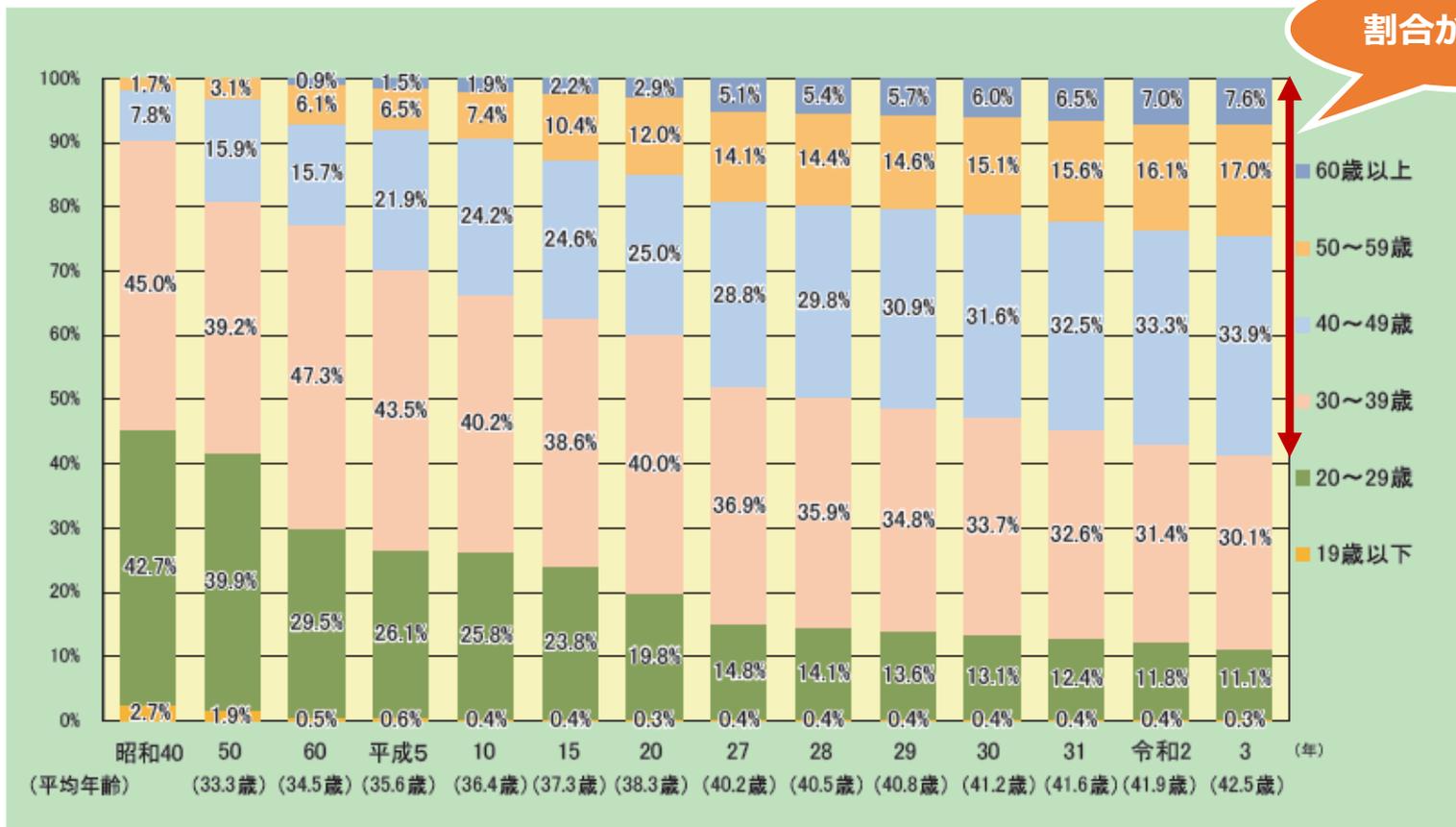
■ 桐生市の状況（年度・4/1時点）



全国の状況を見ると、団員の中・高齢層の増加が進んでおり、40歳以上の消防団員の割合が年々増加している。

■全国の状況

図4 消防団員の年齢構成比率の推移

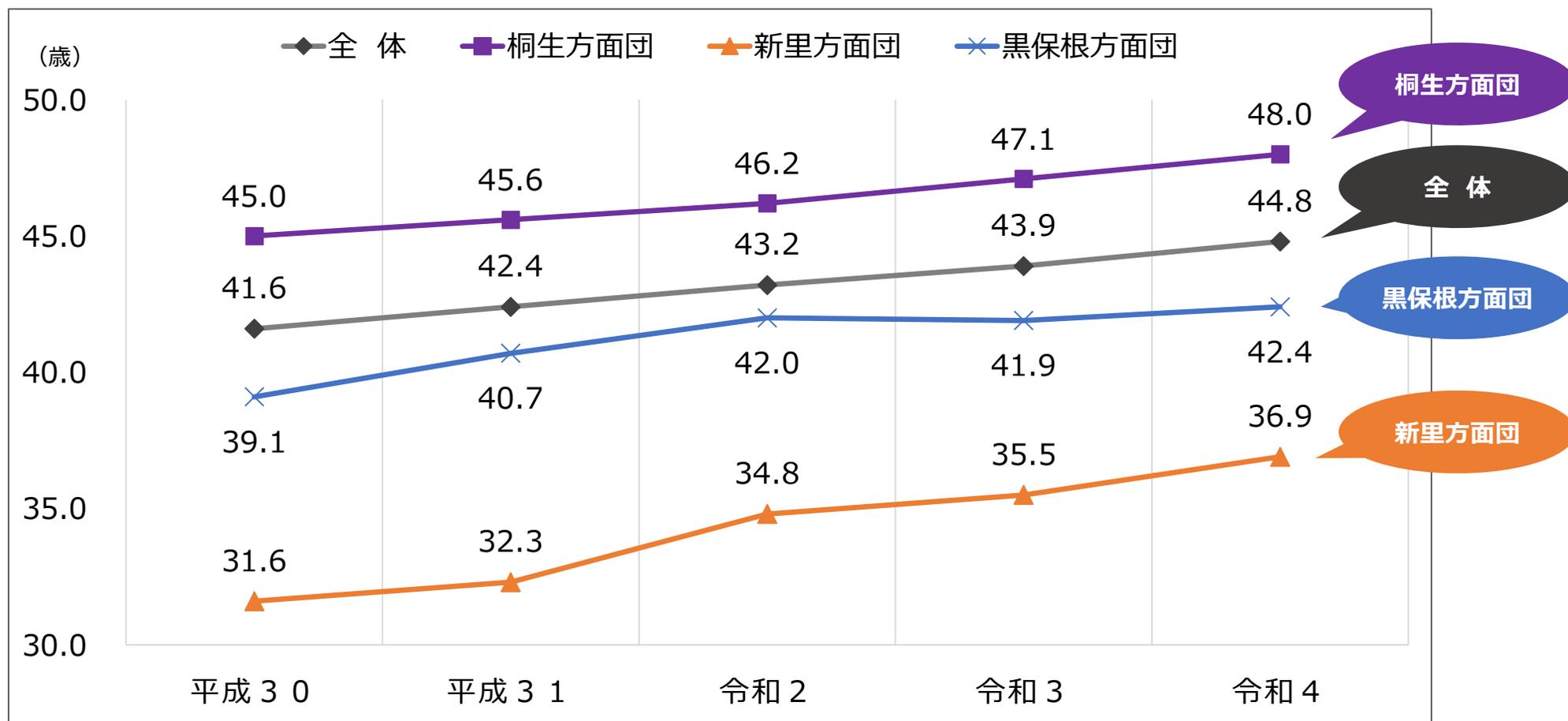


- (備考) 1 「消防防災・震災対策現況調査」により作成
 2 昭和40年、昭和50年は「60歳以上」の統計が存在しない。
 また、昭和40年は平均年齢の統計が存在しない。

注) 1 「消防白書」を引用

桐生市においても消防団員の平均年齢は年々増加しており、特に桐生方面団の平均年齢が高い。

■ 桐生市消防団員の平均年齢（年度・4/1時点）



地域特性の課題

- 市域の約 7 割を山林が占めていることから、降雨量が少なく、空気の乾燥する春先（1 月～ 5 月）に林野火災の発生が多い。
- 市街地には渡良瀬川や桐生川などの大小の河川が流れていることから、土砂災害や河川氾濫などの対応や、近年の記録的な大雨等による経験したことのない自然災害への対応が課題である。



桐生市消防団の取組

消防団では消防本部と合同で林野火災対応訓練やブラインド型災害対応訓練を実施している。
また、令和4年6月29日には、災害時における各機関の役割や他機関との連携等を確認し、激甚化する自然災害に備えることを目的に、市役所・消防本部・消防団の参加による水害を想定した「ブラインド型災害対応合同訓練」を実施した。



ブラインド型災害対応合同訓練の様子



ポンプ操法競技大会



秋季点検 放水訓練



出初式 分列行進



女性消防団員による
住宅用火災警報器普及活動